

「房総のむら」は、参加体験型の博物館です。原始・古代から近・現代までの衣・食・技の移り変わりを、当時の環境の中で、お客様が直接体験することができます。

開館時間 9:00~16:30
休館日 月曜日(休日の場合は開館し、翌日休館)
年未年始(12月25日~2017年1月1日)
臨時休館日(2017年2月14日)
入場料 一般300(240)円 高大150(120)円
※()は20人以上の団体料金
※中学生以下と65歳以上無料
※障害者と介護者無料

大木戸

編集・発行
千葉県立房総のむら 指定管理者
公益財団法人 千葉県教育振興財団
房総のむら
〒270-1506 千葉県印旛郡栄町龍角寺1028
TEL. 0476-95-3333
<http://www.chiba-muse.or.jp/MURA/>

炭は、一般家庭に電気やガスが普及する昭和三十年代中頃まで、家庭燃料の主力であり、生活必需品でした。炭を焼く煙が山から立ち上る風景はどこでも見られるものでしたし、どの家庭でも炭俵に入った炭を使用していました。

千葉県では、全国的に有名な「佐倉炭」「久留里炭」をはじめ、古くから多くの炭が焼かれてきました。今年度の企画展では、江戸期から昭和期にかけての県内の木炭生産をテーマに、佐倉炭と久留里炭の生産と発展の歴史、また、その生産に関わった人々について、今日に残る資料と技術をもとに紹介しています。

さらに、明治から昭和初期に、炭焼き技術の向上を目指して研究を重ねた人々についても、合わせて紹介しています。

企画展の開催にあたり、多くの方のご協力を頂き、現在県内で炭を焼いている方、昔焼いていた方などから、貴重なお話を伺うことができました。関係者の皆様には、この場を借りて厚くお礼申し上げます。その中から、ここでは企画展の中では触れられなかった、君津市での久



平成28年度企画展 「炭と暮らす」

会場：風土記の丘資料館2階
会期：平成28年10月8日(日)
～11月27日(日)



久留里城址資料館の裏山には、ムジナ窯跡が数多く残されている。



大人が立つことのできる程、大きなムジナ窯。しゃがんで作業をする大きさの窯が一般的であり、この規模は珍しい。

留里炭調査の様子をご紹介します。

君津は山がちな土地が多く、特に山間部の地域では、昭和三十三年頃まで、多くの人が山で炭を焼きながら暮らしていました。生産者は、山林保有者や官有林などから木を伐る権利を購入し、山中に窯を造って炭を焼きます。窯が家から遠い場合には、寝泊りする小屋を作ることもありました。そして木が無くなると、また次の場所の権利を購入し、移動して窯を造り、炭を焼くの

です。そのため君津市内の山中には、今も数多くの炭窯跡が残されています。君津の炭窯は主に、天井を土で造る「土窯(ほうろく窯)」、鉄板で天井を造る「鉄板窯」、山の斜面に穴を掘って造る「ムジナ窯」の三種類に分けられます。

地形や地質などによって造れる窯が異なりますが、鉄板窯は鉄板を買う元手が、土窯は平地と窯造りの技術が必要であったため、硬めの地質の多い久留里では、ムジナ窯が盛んに造られたようです。

六月某日、君津市久留里在住の炭焼き経験者（大正十五年生）と、久留里城址資料館裏の山を散策しました。彼は昭和二十〇二十一年にこの山の木を焼いた経験があり、窯は、伐り出した木を集め易く、焼いた炭を運び出し易い場所に造ったそうです。山中は思った以上に起伏が激しく、重い炭俵を背負って運ぶことは、想像を絶する重労働です。残念ながら、彼の炭窯跡を見つけたことはできませんでしたが、後に調査を行った際には、ほ

ほんの数メートルの間に二つのムジナ窯跡を見つけたことができました。久留里山中を歩くと、炭焼きが盛んに行われていた昭和初期の風景が目に浮かんでくるようです。

今回の企画展では、普段目にする機会が少ない炭窯を、ぜひ皆さんに知ってもらうと、会場に炭窯模型を作りました。これは、一般的な土窯を模して造った炭窯で、中に入ることができません。通り抜けると、炭焼きの様子が少しだけ分かる仕組みになっています。

この秋は、房総のむら企画展「炭と暮らす」にお越しいただき、炭焼きの世界に一歩足を踏み入れてみませんか。

（萩原）

関連イベント

・ミニ炭俵作り

11月6日(日)当日申込み

無料 ①10:30 ②13:30

・炭火で「焼きおにぎり」作り

11月23日(祝水)当日申込み

無料 11:00～なくなり次第終了

・炭焼き窯を使った「炭焼き」体験(3日間コース)

11月26(土)・27日(日)、12月

11日(日)事前予約制。定員5名に達し次第受付終了。800円

期間中に行う「炭」を使った体験

・煎餅焼き(菓子のお店)

11月1・2・4～6・8～13日

・ほうじ茶作り(お茶のお店)

11月16・17・20・22～27日

・鉄の小物作り(鍛冶屋)

11月10・11日



展示会場で一際目を引く炭窯模型。本物の約2倍の高さがあり、窯の中からは子どもたちの賑やかな声が聞こえてくる。

安房の農家 ダイドコロの屋根修理

今年、十二月から翌二月にかけて、

安房の農家のダイドコロで屋根の葺き替え工事が行われることになっています。

屋根の材料には、茅などの「草」、檜皮ひわだや板などの「樹木」、さらに「土」や「瓦」など、幾つかの種類がありますが、その中でも草葺きの屋根は、原始・古代の堅穴住居跡を思い起こすように最も古い形の屋根の一つです。

「茅」とは、広辞苑によれば「屋根を葺くのに用いる草本の総称。チガヤ・スゲ・ススキなど」とあります。

今から三年前の平成二十五年二・三月に安房の農家馬小屋の屋根修理を行った際に屋根職人である佐藤さんからお聞き



安房の農家馬小屋一軒の仕上げ一

した話を交えて、手順を紹介します。

まずは、既存の茅屋根を撤去することから始まります。次に、屋根の骨組みの上に稲藁を敷き、その上に長さや太さ、色（赤みや白みを帯びたもの）の異なる茅を軒から棟にかけて下から四層・九段に葺き上げ、仕上げには「養茅」みのぶ（軟らかい茅）を葺き完成しました。棟は、「竹簀たけすみね切富造り」と呼ばれる造りです。

屋根の内部には「押し茅」おし、「裏茅」うらなどと呼ばれる青竹で骨組みと茅が荒縄を用いて固定されています。押し茅では強く縛られる際に上側の茅が沈み込まないように「のべ」と呼ばれる短い茅が挟み込まれていたり、縄の結び方一つでも、様々な技が隠れていることがわかりました。

茅葺き屋根職人さんの腕の見せ所は、軒下の化粧、屋根の角部分、棟の作りなどだそうです。

茅葺き屋根の家は、昭和四十年代以降、トタン葺きや瓦葺きなどの家に取って代わられ、ほとんど見ることができなくなりました。現在、重要文化財などで指定・保存されている茅葺きの建物を維持し、永く後世に伝えていくには、茅葺きの技は欠くことのできない重要な技術の一つです。

修理中「茅葺き体験」を考えています。詳細はホームページなどでお知らせします。

（藤崎）

新規予定演目
古代衣裳体験

風土記の丘資料館では、原始・古代の体験用として二十程の演目を現在実施しています。演目内容は、「道具と技」として、土器づくりや火起こし、「飾り」として、勾玉を始めたアクセサリー作り、「食」として、塩づくり、縄文料理、そして「歴史教室」として、考古学講座・拓本教室、「歴史カイド」では、古墳めぐり・復元竪穴住居や資料館展示の説明会等を行い、当時の人々の生活をより容易に想像できるようにしています。

しかし、これらの体験内容を見直すと、一般的にも言われる人々の生活の基本「衣・食・住」の、「衣」に係わるものが展示資料にほとんど無く、体験演目においても「衣」に関わるものは皆無であり、わずかに関連するものとしてアクセサリー作りが挙げられるくらいです。



古代衣裳(大人用・子ども用)

当時の衣裳については、雑誌や画像で目にするには、あまりありませんが、実際に復元

したものを目にするには意外に少ないように思われます。来館者からも古代の人々の服装についての質問を受けることが良くあります。

このようななか、当資料館では、主テーマでもある「古墳時代」の衣裳をいろいろ資料を基に大人用・子供用、女子用・男子用を昨年度より少しずつ製作しています。



古代衣裳体験風景

そして今年度より、おまつりなどの大イベント時に試行的に来館者に試着体験をしてもらっています。九月に行われた「稲穂まつり」では、子どもを対象として行いましたが、多くの方々に喜ばれ試着してもらいました。

来年度から本格的に実施するには、まだ多くの課題を処理して行かなければなりません。是非実施したいと思っています。皆様、来年度をお楽しみにして下さい。

(野口)

めし屋
親子太巻き寿司教室

太巻きは、古くから冠婚葬祭や集まりのごちそうとしてふるまわれ、千葉を代表する郷土料理の一つです。商家めし屋では、このような地域の郷土料理を楽しんでもらうために親子太巻き寿司教室を開催しています。今回は、八月二十七日・二十八日にかにの絵柄の太巻き寿司を作りました。見本として最初に職員が太巻きを巻いていきます。まず、かにの爪や脚のパーツを作ります。かにの爪にはチーズかまぼこ、目にはヤマゴボウ、脚にはかんぴょうを使い、それぞれを海苔で覆います。かにのお腹は、ピンク色に染めたごはんを海苔で巻いて作ります。

かにのパーツが全部できたら、ここからそれぞれパーツを順番に重ねていきます。胴体・脚・爪・目と順番に、絵柄同士がくっつかないよう、間にごはんを挟みます。



金太郎飴のように、ずっとかにの絵柄が出てきます。

最後に白いごはんで蓋をし、全体を巻き簾でぎゅつと巻けば出上がり。子どもたち



こんなに上手にできました！

は「えー、これがかにさんになるの？」と信じられない様子。太巻きは、どんな絵柄になるか、切ってみてからのお楽しみです。初めて包丁を使う子もいましたが、みんな上手に太巻きを切ることができました。切ると同時に「わー、かわいい！かにさんだ！」と歓声があがり、それぞれ個性的で元気なかにが出来上がりました。「お家でもお料理頑張る！」「楽しかった、また来るね！」と、子どもたちは満面の笑みを浮かべていました。次回の親子太巻き寿司教室は、平成二十九年一月八日・九日となります(予約開始日は十二月一日より)。バラの絵柄の太巻き寿司を作りますので、ぜひご家族でお申し込み下さい。

(水島)

むらの三十周年企画
「写真で見るむらの
三十年」を終えて

昭和六十一年四月一日に開館した千葉県立房総のむらは、今年で三十年を迎えました。六月に開催した写真展では、この節目を記念し、建設風景や開館記念式典の写真を約五十点公開しました。なかでも、かつて家族と一緒に



写真：旧学習院初等科正堂前にて(左：現在 右：17年前)

房総のむらに遊びに来ていた子が、大人になり、現在房総のむらの職員として働いていることを紹介した「世代を超えて楽しむことができる博物館を目指して」と題したコーナーは好評でした。「こんな懐かしい写真あるよ」と情報提供してくれた方も少なくありません。房総のむらは、十年先、二十年先を見据え、博物館としての使命をはたすとともに、誰にとっても居心地のよい施設づくりに努めていきます。

(中村)

ボランティア活動記
大人も子どもも夢中になる「昔のあそび」

昔のあそびボランティアには、現在二十七人の登録があり、竹馬、竹のぼっくりをはじめ、コマ回しやベーゴマ、お手玉、おはじきあそびの指導、紙芝居などさまざまな活動をしています。

主に土日に、下総の農家で竹馬乗りの指導やコマ回しとベーゴマを教えています。このほか、小学校の団体体験での昔のあそび指導、春のまつり、むらの緑日・夕涼み、稲穂まつりに紙芝居・昔語りの上演を行い、来館者から好評を博しています。

今年には外部イベントでも「昔のあそび

体験」を行い、協力していただきましたが、的確な指導のおかげで子供や大人、さらには外国人まで日本の昔のあそびに夢中になっていました。

普段接している身近な人以外と話す



大人も子どもも夢中です。

きっかけにもなる昔のあそび。土日はむらの「昔のあそびの達人」に会いに来てください。

(蒲生)

下半期の主な予定

- 10月8日(土)～11月27日(日) 企画展「炭と暮らす」
- 10月22日(土)～11月20日(日) 房総のむら写生コンクール作品展
- 11月27日(日) 吉川久子フルートコンサートin房総のむら
- 12月10日(土)～2月26日(日) 成田ニュータウンの遺跡展(第2期)
- 12月10日(土)～2月26日(日) 写真展「レンズをとおした房総のむら」
- 平成29年1月2・3日(月・火) むらのお正月
- 2月18日(土)～3月5日(日) ビックリひなまつり
- 2月19日(日) 第4回考古学講座
- 2月26日(日) 房総座(柳家三三)等

◆編集後記◆

むらの木の葉が色づき、秋の気配が深まってまいりました。

さて、十一月三日(祝・木)に「ふるさとまつり」を開催します。当日は入場料が無料となります。毎年恒例の「もちまき大会」も行います。また、同時に「ユニセフ・ラブウオーク」房総のむら」を開催します。お申込みは千葉県ユニセフ協会のホームページをご覧ください。皆様のご来館お待ちしております。

(蒲生)